

ラグビーの楽しさ知る

大館市民
スポーツ祭

小中学生が体験会

第55回大館市民スポーツ祭「ラグビー体験会」が3日、同市のニプロハチ公ドームで開かれた。市内の小中学生15人が参加。ボールやタグを使ったゲームに汗を流し、楽しみながらラグビーの魅力を感じた。

市体育協会主催、市ラグビーフットボール協会（田村哲也理事長）主管。2018年までは中学生を対象にしたタグラグビー交流大会を開いていたが、地域の競技人口拡大

を図るため、19年から参加枠を小学生まで広げた。昨年度から、市が社会人ラグビーの秋田ノーザンブレッツなどと共催する「スポーツ夢授業」が市内小学校で実施されていることもあり、興味を持った児童に体験の場を設ける狙いもある。大館桂枝高校ラグビー部の生徒4人やスポーツ少年団の保護者らが指導員として運営に協力した。

小学1、2年生の参加が多く、低学年チームと高学年、中学生チームの二つに分かれて体験を行った。児童生徒は「ボールタッチ鬼ごっこ」「ラン&トライ」などボールを持って走るミニゲームや、約20四方のフィールドでの「タグラグビー」に挑戦。指導員から「周りを見ながら動くこと」を一番に意識して「なまじり

助言を受けながら、「逃げろ」「パス」と声を掛け合い、終始笑顔でプレーする姿が見られた。

初めて参加したという山内翔真さん（桂城小1年）は

「タグラグビーの試合でトライを何度も決めることができ、楽しかった。またやりた」と目を輝かせた。

同協会の田村理事長は「今回はコロナ禍で例年より参加



「ボールタッチ鬼ごっこ」を楽しむ児童（ニプロハチ公ドーム）

人数は少なかったが、小学校低学年を中心に競技人口が徐々に増えてきている。ラグビーの「きつい」「大変」という印象を払拭し、楽しいスポーツだということを伝えていきたい」と展望を語った。

2021年11月3日 開催

11月4日 北鹿新聞 掲載

北鹿新聞社 提供